地域におけるキャリア意識形成を促す授業実践
―副専攻コア科目「いわて創造入門」実施報告―

The Practice of Class to Form the Carrier Awareness in the Region:
Reports on “Introduction to Iwate Research”

渡部　芳栄（高等教育推進センター）

Abstract

Iwate Prefectural University has begun offering a new minor “Iwate Regional Developmental Education Program”. Iwate Prefectural University has provided community-oriented courses in all of undergraduate programs, so this minor program aims to integrate these community-oriented elements. The minor has two new courses: “Introduction to Iwate Research” and “Actual Practice in Iwate Research”, and Introduction to Iwate Research is the core course of the minor.

This report provides information about the aim, learning objectives, educational material and teaching methods of the Introduction to Iwate Research. The aim of the classes is to 1) understand Iwate Prefectural University, 2) understand Iwate Prefecture, and 3) understand students themselves (in order to form their career awareness). Learning objectives and educational material are currently decided to match these goals. Classes were taught in a large classroom that can accommodate more than 500 people, but active learning that utilizes group work was implemented. Based on the students’ opinions, it has been recognized that there are things left to be desired in the classroom environment and methods in order to better accomplish the aim of the classes.

キーワード：副専攻，いわて創造，自校教育，地域教育，キャリア形成

１．はじめに

本学では「岩手の未来を創造する地域中核人材の育成と地域の活力創出に資する」ため，2014 年度に「地域創造プラン」を策定した。そこで展開するとしたプログラムの 1 つに「地域志向教育の再構築」が掲げられており，第 1 の柱が「学生が県内各地の現状と課題に直に触れ，大学での主体的・能動的な学びへのきっかけを作ることを目的とする「地域創造学習プログラム」の実施」，第 2 の柱が「教育課程への「地域志向教育」の拡充」であった。第 1 の柱については，「地域創造学習プログラム」が実際に課外学習プログラムとして立ち上がり，2014 年度には宮古，大槌，釜石，西和賀，盛岡・滝沢の 5 コースが，2015 年度には陸前高田・大船渡，久慈，二戸，矢巾・紫波，北上，洋野，葛巻，奥州の 8 コースが実施された。その 2 年間の実績を背景にしつつ，第 2 の柱を具体化した副専攻「い

わて創造教育プログラム」を含みこんだ「ふるさといわて創造プロジェクト」が COC＋に採択（主幹大学は岩手大学。岩手県立大学は COC 大学に認定）された。

表 1　副専攻の構成

	科目名	開講年次	単位数	修了要件	概要
キャップストーン科目	いわて創造実践演習	3後集中	2	2単位	◆ これまでの学修成果を「いわて」の視点で一本の軸に統合化する科目
地域専門科目群（38科目）	地域看護学概論、地域福祉論、起業論、総合政策入門　他	1~4	各2	4単位以上	◆ 主専攻の専門分野を背景に、地域への視野を広げ、相対化する科目
地域基盤科目群（14科目）	いわて創造学習ⅡA、ⅡB	2前後集中	各2	4単位以上	◆ 岩手の産業・自然・文化・歴史・課題等を学び、触れ、考察する科目 ◆ 自己のキャリアを考察する科目
	いわて創造学習ⅠA、ⅠB	1前後集中			
	人間と職業、地域社会とボランティア、地域と情報　他	1~4			
コア科目	いわて創造入門	1	2	2単位	◆ 地域や大学の特色を知り、自身と岩手との関わりを考える科目
	計			12単位以上	

それを受け，2016 年度から副専攻「いわて創造教育プログラム」が開始されたが，副専攻は左のように 4 つの科目群（コア科目，地域基盤科目群，地域専門科目群，キャップストーン科目）から構成されている。

本副専攻については，制度開始にあたり新設した基盤教育等もあるが，基本的には従来本学の基盤教育や専門教育においてすでに実施されている地域志向の授業を生かすこととしている。そのため，この副専攻を構築するために新たに作ったのは，コア科目「いわて創造入門」とキャップストーン科目「いわて創造実践演習」という 2 つの授業と，「いわて」の視点で統合するための「I-ポートフォリオ」である。

キャップストーン科目「いわて創造実践演習」は，2016 年度の 1 年生が 3 年生となった後期に集中科目として初開講することを予定しており，授業設計は今後の大きな課題である。コア科目「いわて創造入門」は，本副専攻のコア科目であると同時に，本学に入学した 1 年生全員に必修科目として開講しているものでもある。本学は県立大学であり，そこに入学するすべての学生にいわてや地域との関わりについて考えてほしい，早期に地域におけるキャリア意識を形成してほしい，という願いを込めているためである。よって，全員に「I -ポートフォリオ」の使用を義務付けている授業でもある。

筆者は，この副専攻教育部分の構築に関わったという経緯もあり，副専攻のコア科目「いわて創造入門」の代表教員となって半年間授業を実施してきた。本稿では，開講初年度の経験を報告する。

２．授業の狙い・学修目標

２−１．授業の狙い

岩手県立大学は，建学の理念のもとに岩手県が設置した大学である。この授業では，本学の歴史や目指す方向性，教育研究・地域貢献・学生生活等を知ると同時に，東日本大震災からの岩手県の復興状況や残された課題，地方創生に向けた取組を理解する。また，地域に根ざし，地域に学び，地域課題に取り組みながら自分を理解し，自分の進む方向性を考える「いわて創造教育プログラム」の意義と役割を理解する。

なお，この授業は建学の理念の「人間性豊かな社会の形成に寄与」「豊かな感性」「自律的な人間」に関連する。

図 1　コア科目の狙い（第 6 回授業提示資料）

上は，シラバスで掲げたこの授業の狙いである。副専攻のコア科目であると同時に，1 年生全員必修科目であることから，2 つの狙いを込めている。すなわち，前半に記載されているのが岩手県立大学の歴史や特徴を理解してもらうこと，後半に記載されているのが岩手県・県内市町村の特質や課題について理解してもらうことである。しかしながら，より大きな統合的な目標として，岩手県立大学に学び，岩手県に在住する学生自身が，今の自分とは何か，どのような存在かを考えてもらう，また，近未来的には地域（岩手県に限らず普遍的な意味）に対して自分はいったい何ができるか，そのためには岩手県立大学にいる間に何をどのように学ばなければならないかを考えさせる，いわゆるキャリア教育という側面を持ちあわせることを狙いとしていた。当該授業第 6 回においても，図 **1** のように学生に説明している。

2−2．学修目標

1　岩手県立大学を理解し，自分の言葉で説明できる
2　授業内外において，自律的に学ぶことができる
3　他の学生と協力し，学ぶことができる
4　岩手県を理解し，自分の言葉で説明できる
5　自分が地域に対し，どんな貢献ができるかを説明できる

上がシラバスで掲げた，この授業の学修目標である。授業の狙いから，学修目標 1 と 4 はほぼ必然的に導き出されるものである。しかし，近年のアクティブ・ラーニングへの期待の高まりや，入学動機も，将来の進路も，地域に対する知識・態度・関心等も異なる 1 年生全員が受ける授業であることを背景に，学修目標 2 と 3 も目標として組み込んだ。これらは単に，知識を受け取るだけでなく，自分で知識や情報，あるいは意欲までもつかみ取ってほしいという意味でもあったが，さらには知識・情報の収集・整理のみならず，それらの知識・情報を生かして，自らが具体的に地域にできる貢献を考え，まとめる能力の育成も目指し，学修目標 5 を加えた。なお，目標 4・5 は副専攻「いわて創造教育プログラム」の育成能力にも関連させており，コア科目から副専攻へつながる仕組みを目指した。

3．教育内容及び方法

3−1．教育内容

上述の授業の 2 つの狙いに対応し，授業内容も 2 部構成とした。すなわち，第 2 回目から第 7 回目までは第 1 部とし，岩手県立大学を理解・説明するという学修目標 1 に対応した内容，第 8 回目から第 14 回目までは第 2 部とし，岩手県を理解・説明するという，学修目標 4 に対応した内容とした（表 2）。

表 2　コア科目の授業計画

回	月日	内容
1	4 月 18 日	ガイダンス
2	4 月 25 日	県立大学生に望むこと（学長）
3	5 月 2 日	課題①提示と県立大学の歴史と教育研究
4	5 月 9 日	県立大学の地域貢献・社会貢献
5	5 月 16 日	県立大学生の学生生活、過去・未来
6	5 月 23 日	基盤教育と地域学習
7	5 月 30 日	課題①報告会と課題②提示
8	6 月 6 日	地方創生といわて創造教育プログラム（外部講師）
9	6 月 13 日	いわての復興（外部講師）
10	6 月 20 日	いわての交流人口（外部講師）
11	6 月 27 日	いわての協働による地域づくり（外部講師）
12	7 月 4 日	いわて創造の実践（外部講師）
13	7 月 11 日	課題②報告会
14	7 月 25 日	岩手県の課題と求められる能力等（知事）
15	8 月 1 日	ふり返りとまとめ

第 1 部では，鈴木学長による学びの姿勢やプロセス等の他，学長ご自身による建学の理念の解釈などをお話しいただいたのを皮切りに，第 3 回～第 6 回の授業では，岩手県立大学の設置の経緯やその後の歩み，3 つのポリシー，地域貢献や社会貢献，学生生活や就職などを盛り込んだ内容とした。なお，各部のつながりを意識し，第 6 回の授業は地域学習の内容，第 8 回（第 2 部）は地方創生と大学の地域志向教育プログラムの話とした。

第 2 部では，岩手県には欠かせない東日本大震災津波からの復興状況や，地方創生との関わりでの交流人口，公的機関のみならず多様な主体が関わるまちづくりについて講義を行った後で，実際に久慈広域圏で地域づくりに関わっている NPO 法人の実践について講話を頂いた。そして第 14 回では，達増岩手県知事にお越し頂き，現在県が抱えている課題を幅広く講演頂き，学生に何を求めるか等を盛り込んで頂いた。

3-2．教育方法―アクティブ・ラーニング

図 2　本学講堂（第 7 回授業の様子）

1 年生全員約 470 名を対象に一斉に講堂で授業を行うという，本学開学以来恐らく経験のない実践となった。本学の講堂（図 2）は 1 階に約 380 名，3 階に約 160 名収容できる教室（というよりホール）である。図のように，机もなく椅子は固定という中で，近年注目されている「アクティブ・ラーニング」をどう実現するかが，授業開始前からの最大の懸念であった。なるべく聞くだけの授業ではなく，固定椅子という不自由があることは理解しつつ，学生同士で議論をさせる努力を取り入れることにした。

図 3　全体掲示板

まずは，座席を指定して 1 グループ 5～6 名にて構成されるグループを 79 作成した。このグループには，4 学部すべてから最低 1 人入ることとし，男女比も 1:1 に近いものとした。このグループで，できる限り授業内に授業内容と関係するグループワークを行わせた。グループワークで出された意見は，全体掲示板（図 3）で共有し，グループ内の意見を相対化することを目指した。なお，聞きっぱなし，話しっぱなしにならないように，授業の最後には個人でふり返りをさせ，提出させている。

また，グループ間に一定の競争意識を持たせるため，授業の第 7 回と第 13 回には報告会を取り入れた(テーマ①「高校生に岩手県立大学をプレゼンする：県大と県大生の特徴」，テーマ②「岩手県内市町村をプレゼンする：選んだ市町村の特徴と課題」)。アクティブ・ラーニング界（？）では有名な「橋本メソッド」を援用し，グループごとに岩手県立大学の特徴や県内市町村の特徴・課題を報告する資料を事前に作成させ，全学生が 4～5 グループの報告資料を見て，最も出来がよいと思ったグループに 1 票を投じ，票数の多いグループから発表できるシステムとした（なお，1 回につき 10 グループ程度しか報告できず，報告できたグループには報告点を付与している)。

3-3．教育方法―I-ポートフォリオ

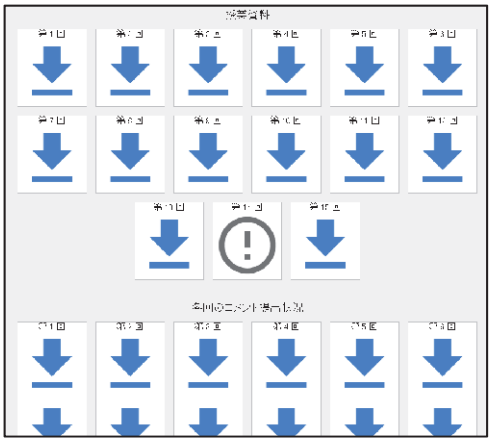

図 4　I-ポートフォリオ（資料，ふり返り）

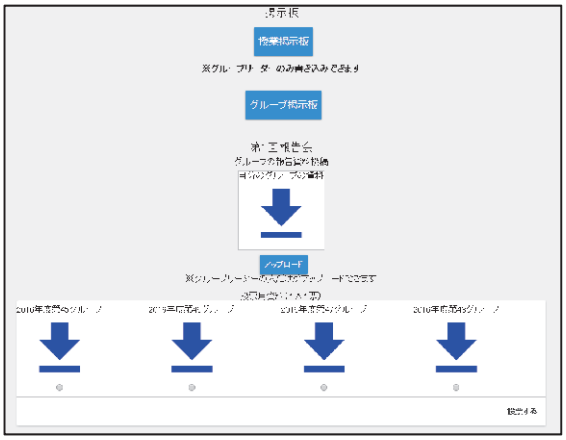

図 5　I-ポートフォリオ（掲示板，投票）

I-ポートフォリオは，上述のように副専攻の学びを統合するためのものであるが，全員が受講するこの授業（と，最後のいわて創造実践演習）では，授業でもフル活用している。この授業では，上述の「全体掲示板」の他，授業関係資料（レジュメ・授業提示スライド）がアップされている他，各自が授業最後に記載したふり返りシートが画像データとして保

存されており，各自は必要に応じてこの授業，あるいは副専攻履修中に自らの学びや成長をふり返ることができる（最終レポートの時も，自分の記載をふり返るように指示を出している）。また，授業掲示板や投票システムもすべて I-ポートフォリオに搭載しており，副専攻やこの授業に関連する内容はすべてこのポートフォリオに集約することにしている（以上，図 4 及び図 5）。さらに，最後のレポート提出も同システム内で行っている。

4．中間授業アンケート結果

本報告執筆段階（2016 年 10 月末）では，まだ最終回で実施した最終授業アンケートの結果は提示されていないため，2016 年 6 月 21 日を締切として実施した中間アンケートの分析結果を以下に示す。中間アンケートは，数値によるものではなく，自由記述によって授業の良いと思う点と改善してほしい点（及びその他自由）について学生が WEB 上で回答するものである。「特になし」といった回答を除き、良いと思う点には 96 件、改善してほしい点には 62 件、その他 42 件の記載があった。

下の図は，良いと思う点，改善してほしい点について，コメントに多かった語句を抽出したものである（KH Coder を利用して作図した。なお，この分析結果とコメントは 2016 年 6 月 24 日に学生に対して WEB 上で提示したものの抜粋である）。良いと思う点（図 6）を見ると、「岩手県立大学を知ることができた」（左方）、「自分の出身の理解を深めたりできた」（上方）、「外部講師の話を聞いて考えた」（真ん中付近）、「他学部の人と交流できた」（右方）といったことが挙げられている。

一方改善してほしい点（図 7）を見ると，「スライドが少し早い」（上方）、「学部が違うと課題を行うのが難しい」（右方）、「投票が大変」（真ん中付近）とか、「レジュメが大変（おそらく印刷）」（左方）、「机（のない中）で書くのが大変」（真ん中付近）、「グループワークの時間を増やしてほしい」（右方）、「システムに関する要望」（左の方）などが挙げられている。

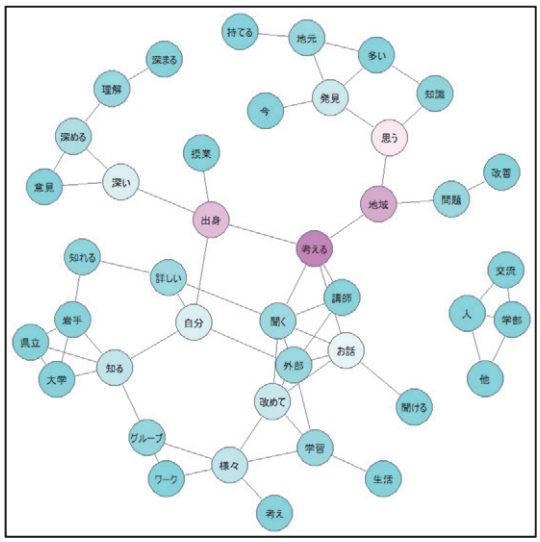

図 6　良いと思う点

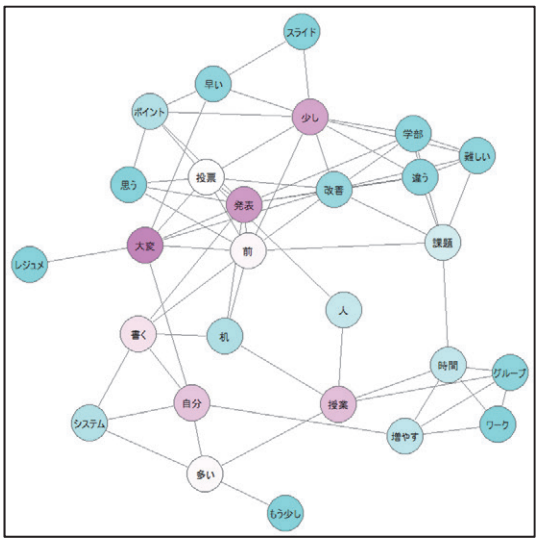

図 7　改善してほしい点

５．終わりに

中間アンケート結果からは，大学を知る，岩手（地域）を知るという授業の大きな２つの狙いに対しては，多くの学生が肯定的な感想を持っていることが分かった。外部講師による具体的な実践事例等も刺激を与えているようであり，地域におけるキャリア意識の形成には一定の効果があったと思われる。また，毎回のふり返りでの記載を見て，最も学生が良いと思っていると思われるのが他学部との交流であり，専門に偏らない内容かつ全員に学んでほしい大学や地域に関する内容を盛り込んでいる本授業の特徴と言えるかもしれない。固定椅子という困難はあるが，他学部との交流を促すアクティブ・ラーニングは継続していくことが望ましい。ただし，学部が違うと授業外でのグループ学習が難しいという不満も出ており，授業内で知的・意欲的にどのように意味のある学部間交流を生み出すかがカギとなる。

机がない点については何らかの対応が必要である。大規模改修などは短期的には難しいことから，ひとまず全学生にクリップボードを配布するなどの手立てを検討する必要があるだろう。システム関係は，副専攻を進めながら少しずつ開発をしていることもあり，学生に迷惑をかけてしまった点は否めない。現状では，この授業以外の授業で使っている例はなく，セメスターのふり返りをさせるために使用している程度である。Facebook などの SNS のように，学生が地域に関連する授業や活動をつぶやき，それを見て他の学生が刺激を得ることができる仕組みなどもポートフォリオ利用率向上のためには望ましい方法の１つである。また，学生にとっての使い勝手については，学生の意見を聞きながら継続的に修正を加えなければならない。SNS のような使い方をするためにも，また，これだけスマートフォンが普及している現状を鑑みても，アプリ化の検討も必要かもしれない。

上述のように，アクティブ・ラーニングが肝となる授業であったが，外部講師が講演をして下さる際には，グループワークについて無理にお願いすることはできなかった。学生の要望を見ても，もっとグループワークの時間を増やしてほしいと感じていることも見える。授業としての質の担保は念頭に置きつつ，また授業内容・方法の全体的な一貫性を保つうえでも，授業担当・授業方法のあり方を検討しなければならない。

さらに重要なことは，このコア科目と副専攻全体とのつながりを考慮しながら，キャップストーン科目「いわて創造実践演習」に至るまでの，学生の地域におけるキャリア意識形成を促進・支援する具体的方法の検討である。学生が一定期間ごと（例えば，セメスターごと）に，「今の自分は何者か」「地域の中における今の自分の立ち位置はどのようなものか」などをふり返らせ，教員やコーディネーター，あるいは学生同士で評価・フィードバックができるような実質的な仕組みを作らねばならないだろう。

参考文献

荒木淳子・伊達洋駆・松下慶太，2015,『キャリア教育論―仕事・学び・コミュニティ』慶應義塾大学出版会。

梅澤正，2007,『大学におけるキャリア教育のこれから』学文社。

高橋和幸・難波利光編著，2015,『大学教育とキャリア教育―社会人基礎力をキャリア形成に繋げるために―』五絃舎。